

# データで読む 地域再生

人工知能（AI）を行政の効率化に生かす自治体が増えている。総務省によると、2020年度の市区町村への導入率は21・6%と、19年度から13・4%上昇した。人口減少の加速で人員や予算の確保が難しくなる中、先端技術を生かして「危機」に立ち向かう自治体の姿を追った。（関連記事を地域経済面に）

## 自治体業務 AI で深化

導入市区町村、1年で2.6倍

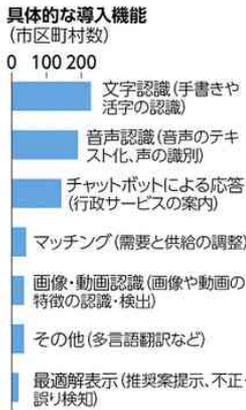
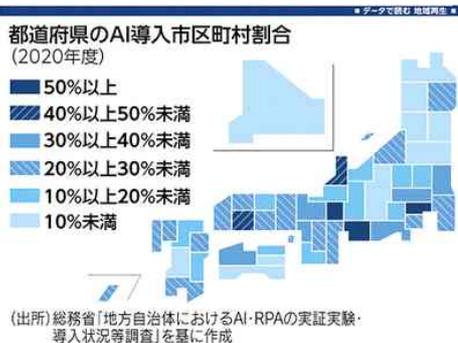
〇〇を支える中核技術のし、初期導入費や運営費一つ。「人工的に作られた人間のような知能」をこと目指す。愛知県は持つAIは、自ら学習し、19年、全市町村と共同で過去のデータから短時間「あいちAI・ロボティクスで精度の高い結論を導き出すことができ、膨大なデータを扱う自治体業務との親和性は極めて高い。総務省の20年度調査にも対応でき、職員の負担を減らせる。滋賀県は市区町村は全国で37賀県ICT推進戦略」を掲げ、22年度にAI共同導入を予定する。単独導別では愛知県の導入率が87%で最多。滋賀県（52・6%）、東京都（51・6%）、広島県（47・8%）が続く。

1位の愛知県、2位の滋賀県とともに、県内自治体と連携することでスケールメリットを創出

## さいたま市 保育所選考、数秒に

さいたま市では20年4月入所分からAIによる保育所選考を始めた。約110問の価値観診断テストの結果と希望条件を基に、AIが理想の相手を紹介する。三重県は児童相談所で子どもの傷やあざの位置などを分析。蓄積したデータに基づき虐待の再発率を示し、職員の判断材料にする。

（山本優、岩崎貴行、地域再生エディター 桜井佑介、渡辺絵理）



主な導入事例 (実証実験を含む)

- 愛知県豊橋市**  
過去の改善事例を基に高齢者に最適な介護サービスを提案
- 滋賀県**  
職員らの会議での録音音声を短時間でテキストに変換
- 千葉市**  
公用車から道路をカメラで撮影し、路面の損傷程度を自動分類
- 福岡県糸島市**  
国民健康保険の診療報酬明細書(レセプト)の内容点検

が、AIを使えば選考はわずか数秒だ。川崎市では国民健康保険料未納者の電話接触率の高い時間帯をAIで割り出し催告業務に活用する。

AIは自治体業務の「深化」にもつながっていき可能性を秘める。低迷する出生率をAIで打開しようとするのは宮城県。11月からAIによる結婚相手のマッチングを始めた。約110問の価値観診断テストの結果と希望条件を基に、AIが理想の相手を紹介する。